分野別研究組織成果報告（2013 年度）

英国人鉄道技師の経歴と貢献－技能形成、技術習得を中心に

The Engineering Careers and Contributions of the British Railway Engineers Who Came to Meiji Japan.

林田 治男（HAYASHIDA Haruo）

研究費の援助を得て、2013 年 8 月 27 日（火）～9 月 8 日（日）「英国人鉄道技師の経歴と貢献」を探るためポートオーガスタ（Port Augusta）、アデレード（Adelaide、いずれも South Australia 州）、メルボルン（Melbourne、Victoria 州）を訪問した。

初めに訪れた PA 市で、現地調査の重要性を再度痛感した。PA 市の図書館で、係員の協力により他所では入手し難い資料を読むことができた。また A 市から PA 市までの飛行機で、その間の距離のみならず、地形や地質（鉄分の多い土壌で褶曲山脈が南北に走っている）に思いを馳せることができた。初代技師長 Edmund Morel は、PA 市で鉄道建設を試みたが、それは（成功が覚束ない）開発型であり、（人間ではなく農産物や鉱産物という）物資運送が主だったため採算性に難点があったことを理解できた。

M 市では、休日を利用して Morel や親類縁者（母方伯父、従兄）の足跡を訪ねた。さらに State Library of Victoria で彼が 1963 年「乾ドック」を勧誘した際に応対した（英国ロンドン出身の）William Wilkinson Wardell の経歴を調べた。W 氏が土木技師、建築家として有名で影響力が絶大だったことが判明した（M 市の St. Patrick Cathedral の設計者）。なお SLV では英国本土の国勢調査などの資料閲覧も可能であり、補充することもできた。しかし残念ながら予定していた Public Record Office of Victoria に足を運ぶ日程的余裕はなかった。

A 市では、State Records of South Australia, State Library of SA に行き調査を進めた。ここで Robert Charles Patterson が Philosophical Society of Adelaide で報告した論文（1870 年）を入手できた。また RCP の経歴も判明し、Morel との関係も浮かび上がってきた（例：King’s College, London で学んだ、Morel が手掛けた PA 鉄道を 1877 年に完成させ英国土木学会で報告した）。しかし結局英国人技師の名前が出てくる資料を見つけることはできなかった。他方、鉄道を中心とした 1860 年代末の A 市開発状況と計画については、SLSA の開架の州議会文書でその概要を知ることができた。残念ながら、新聞記事以外で彼の A 市への入出を確認することはできなかった。余談ながら幸運にもホテル近くの古本屋で、PA 市や SA 州図書館で紹介してもらった文献を買うことができた。

次回機会をつくって SA 州、V 州の議会文書を丁寧に閲覧し、Morel や英国人鉄道技師の行動を跡付けていきたいと考えている。

今回の現地調査で、いくつかの弱点を補強でき、原稿執筆が捗ったことを付記しておこう。